

脳のはなし、
神経のはなし

不整脈で脳梗塞!?

親仁会佐藤病院 神経内科 田村洋平



不整脈とは脈のリズムが乱れてしまうもので、心臓の拍動のリズムが悪くなることです。実はその不整脈のなかに脳梗塞をひきおこしてしまうものがあるんです。「心臓のリズムの問題なのに、なんで脳の血管がつまる“脳梗塞”になってしまうの?」と思われる方もいらっしゃるでしょう。

心臓は酸素を多く含んだ血液を全身に送るポンプの役割をしています。そのポンプが一定の決まったリズムではたらくことで、血液がよどみなく流れるようになっています。ところが、このポンプのリズムが狂うと血液のよどみが心臓の中でできるようになります。血液はあるところにとどまると固まってしまいます。皮膚で出血した時にかさぶたができるのと同じです。もし心臓が不整脈

のためにポンプ機能をちょっとした間やすめてしまうと、血液のかたまりが心臓の中でできてしまうのです。これを血栓といいます。

心臓の中でできてしまった血栓が心臓の中にとどまってくればあまり問題を起こさないのですが、ときにポンプの圧力で心臓から外に押し出されてしまいます。すると、心臓から近くにある血管が脳へむかう血管なので、脳の中へ血栓が飛んでいってしまいます。すると血栓が脳の中の血管でつまってしまいます。脳梗塞の原因となる不整脈は早ければ30代からでも起こり得ますので、注意が必要なのです。脈や心電図は定期的にチェックしましょう。

■佐藤病院 宇都宮市西3丁目1-11 028(633)9261 www.sato-hosp.jp/